

資料1 成分名一覧

成分名一覧 内服薬（主に風邪症状に使う成分）

※成分名の太字部分：ここを覚えることで、何の薬かを判断することができる

|             |                |                                     |   |   |
|-------------|----------------|-------------------------------------|---|---|
| 解熱鎮痛薬       | 中枢性解熱鎮痛薬       | アセトアミノフェン                           | 抗炎症効果ほとんどなし。市販薬のうち、基本的に <b>小児（15歳未満）</b> に使われる解熱鎮痛剤はアセトアミノフェンである。他に使用のものにエテンザミドとサリチルアミドがあるが、これらは <b>水痘・インフルエンザの時は使用できない</b> 。 |   |
| 解熱鎮痛消炎薬     | ピリン系           | イソプロピルアンチピリン                        | 市販薬唯一のピリン系解熱鎮痛剤。副作用に注意  |   |
|             | プロピオン酸系        | イブプロフェン                             | イブプロフェンピコノールは <b>ニキビ薬</b> なので混同しないこと。重篤な副作用：肝機能障害、腎障害、 <b>無菌性髄膜炎</b>  |   |
|             |                | ロキソプロフェン                            | ※現時点、手引きへの記載はありません。   |   |
|             | サリチル酸系         | アセチルサリチル酸（アスピリン）                    | アスピリン喘息注意。 <b>ライ症候群</b> との関連性から <b>15歳未満の小児×。ピリン系ではない</b> 。   |   |
| エテンザミド      |                | A C E 処方の中の一成分。エテンザミドは胃でサリチルアミドになる。 |   |   |
| サリチルアミド     |                |                                     |   |   |
| 鎮咳成分        | 非麻薬性鎮咳薬        | ノスカピン                               | 延髄の咳嗽中枢に作用。   |   |
|             |                | ジメモルファンリン酸塩                         |   |   |
|             |                | デキストロメトर्फアン臭化水素酸塩                  |   |   |
|             |                | クロベラスチン塩酸塩                          |   |   |
|             | 麻薬性鎮咳薬         | チペピジンヒベンズ酸塩                         | 延髄の咳嗽中枢に作用。モルヒネと同じ構造を持ち依存性がある。 <b>2018年の手引きで、原則、本剤を12歳未満の小児等に使用しないこととなった</b> 。副作用として眠気、便秘。                                    |   |
|             |                | コデインリン酸塩                            |   |   |
| 気管支拡張成分     | アドレリン作動薬       | メチルエフェドリン塩酸塩                        |   |   |
|             |                | マオウ                                 | エフェドリンが主成分  |   |
|             | トリメトキノール塩酸塩    |                                     |   |   |
| 去痰成分        | 気道粘膜分泌促進剤      | キシタン誘導体                             | ジプロピリン  | 気管支平滑筋に直接作用する。中枢神経興奮作用があるので、 <b>てんかんの人は注意</b> 。心臓刺激作用あり、副作用として動悸。 |
|             |                | 粘液成分調整剤                             | ブロムヘキシシン塩酸塩   | 分泌促進作用・溶解低分子化作用・線毛運動促進作用を示す。                                      |
|             |                |                                     | グアイフェネシン  | (別名：グアヤコールグリセリンエーテル)  |
|             | 粘液溶解剤          | グアヤコールスルホン酸カリウム                     |   |   |
|             |                | カルボシステイン塩酸塩                         | 痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる。及び、粘液成分の <b>含量比</b> の調整作用。  |   |
|             |                | エチルシステイン塩酸塩                         | 痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる。(痰のジスルフィド結合(-S-S-)切断による作用。)   |   |
| メチルシステイン塩酸塩 |                |                                     |   |   |
| 抗ヒスタミン薬     | 第一世代           | 気道粘膜潤滑剤                             | アンプロキソール  | ※現時点、手引きへの記載はありません。   |
|             |                | 第二世代                                | クロルフェラミンマレイン酸塩  |   |
|             |                |                                     | ジフェンヒドラミン塩酸塩  | 睡眠改善薬の成分でもある。母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合には授乳を避ける必要がある。                |
|             |                |                                     | ジフェニルピラリン塩酸塩  |   |
|             | カルピノキサミンマレイン酸塩 |                                     |   |   |
|             | 第二世代           | クレマスチンフマル酸塩                         |   |   |
|             |                | アゼラスチン                              |   |   |
|             |                | メキタジン                               | まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。  |   |
| フェキソフェナジン   |                | ※現時点、手引きへの記載はありません。アレグラの成分。         |   |   |
| 抗アレルギー剤     | ヒスタミン遊離抑制剤     | セチリジン塩酸塩                            | 2017年2月より2類へ移行。   |   |
|             |                | ケトチフェンフマル酸塩                         |   |   |
|             |                | クロモグリク酸ナトリウム                        |   |   |

|                    |                       |  |   |
|--------------------|-----------------------|--|---|
| 交感神経刺激薬<br>(血管収縮薬) | 点鼻                    | テトラヒドロソリン塩酸塩<br>ナファゾリン塩酸塩  |   |
|                    | 点鼻、内服                 | フェニレフリン  |   |
|                    | 内服                    | ブソイドエフェドリン塩酸塩<br>dl-メチルエフェドリン塩酸塩   | パーキンソン病治療薬、モノアミン酸化酵素阻害剤（セレギリン）を使用中の人は注意。併用により交感神経刺激作用↑。モノアミンとはドパミンなどの神経伝達物質のこと。   |
| 抗コリン薬              | 抗コリン薬                 | ベラドンナ総アルカロイド<br>ヨウ化イソプロパミド   | ナス化の植物。副交感神経遮断作用。女性が目を大きく見せる（瞳孔を拡大させる）ための散瞳剤として使っていた。   |
| 抗炎症成分              | 抗炎症成分                 | グリチルリチン酸二カリウム  | 鼻炎薬、のどの薬、胃薬、目薬にも含まれる  |
|                    |                       | カンゾウ   | グリチルリチン酸が主成分  |
|                    |                       | トラネキサム酸  | 凝固した血液を溶解されにくくする働きあり。血栓のある人は注意。   |
|                    | 消炎酵素                  | セミアルカリプロテイナーゼ<br>プロメライン<br>リゾチーム塩酸塩  | フィブリノゲン・フィブリン分解作用あり。血液凝固異常のある人では出血傾向を悪化させるおそれあり。どちらの成分も含有する商品はほぼ0だが、2018年の試験では何か所かで出題された。リゾチームが使用中止になったため今後市場からなくなる可能性あり。<br>卵白アレルギー注意、2016年に有効性が認められず使用中止になった。内服は2018年、手引きから削除された。 |
| 鎮静成分               | 化学成分                  | プロモバルビル尿素<br>アリルイソプロピルアセチル尿素   | 鎮痛剤と一緒に入っていることが多い。大量摂取による急性中毒が多い。依存性あり。催奇形性あり、妊婦使用不可<br>鎮痛剤と一緒に入っていることが多い   |
|                    |                       | 生薬   | チョウトウコウ   |
|                    | カノソウ                  |  |   |
|                    | チャボトケイソウ<br>ホップ       |  | 別名バツシフローラ<br>ビールの苦味原料   |
| うがい薬<br>またはのどスプレー  | 殺菌消毒成分                | ヨウ素系殺菌消毒薬、ポビドンヨード  | 甲状腺疾患のある人は注意。VCと反応して脱色、殺菌力が低下。  |
|                    |                       | セチルピリジニウム塩化物   | VICKSドロップスに配合。  |
|                    |                       | デカリニウム塩化物  |   |
|                    |                       | ベンゼトニウム塩化物   |   |
| 酔い止め薬              | 抗炎症薬                  | アズレンスルホン酸ナトリウム   | 抗炎症作用と粘膜修復作用を併せ持ち、のどが弱い人にも使える   |
|                    | 抗めまい薬                 | ジフェニドール塩酸塩   | 内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節、内耳への血流改善作用を示す。抗ヒスタミン作用と抗コリン作用がある。   |
|                    | 抗ヒスタミン薬               | クロルフェニラミンマレイン酸塩  |   |
|                    |                       | ジフェンヒドラミンサリチル酸塩  |   |
|                    |                       | ジメンヒドロナート  | ジフェンヒドラミンテオクル酸塩の一般名（ジフェンヒドラミンと8-クロルテオフィリン塩を合成したもの）。   |
|                    |                       | メクリジン塩酸塩   | 遅効性だが長時間持続する  |
|                    | プロメタジントテオクル酸塩         | 外国において、乳児突然死症候群や乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、15歳未満の小児では使用を避ける必要がある。 |   |
|                    | 局所麻酔成分                | アミノ安息香酸エチル   | 胃粘膜を麻酔して嘔吐刺激を和らげる。胃薬にも。メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児は使用不可  |
|                    | 抗コリン薬                 | スコポラミン臭化水素酸塩水和物  | 脳の自律神経系に働きかけ、混乱を抑える。末梢では胃の過剰な動きを止める。  |
|                    | 中枢神経興奮薬<br>(キサンチン誘導体) | 無水カフェイン  | 酔い止めの眠気防止のために入っているのではないので注意。  |
| ジプロピリン             |                       | 甲状腺機能障害又はてんかんの診断を受けた人は相談すること。心臓刺激作用あり、副作用として動悸。                            |   |

成分名一覧 内服薬（胃腸薬その他）

|          |            |  |   |
|----------|------------|--|---|
| 胃腸薬      | 制酸成分       | 合成ヒドロタルサイト ※アルミニウム配合                                     | ヒドロタルサイト（ハイドロタル石）= AlとMgの化合物。Al脳症、Al骨症の恐れ。透析を受けている人は使用不可  |
|          |            | 酸化マグネシウム   | 瀉下剤にも使用される。下痢に注意。   |
|          |            | 炭酸マグネシウム   |   |
|          |            | 炭酸水素ナトリウム  | 重曹  |
|          |            | メタケイ酸アルミン酸マグネシウム<br>※アルミニウム配合                            | 胃内でケイ酸がシカゲルになり、胃粘膜に被膜を形成して保護する。また、Alを含む成分は透析中の人は避ける。長期間服用でAl脳症、Al骨症の恐れ。腎機能低下でAlを排出できないため。※ケイ素：シリコンのこと |
|          | 健胃薬        | リン酸水素カルシウム   |   |
|          |            | オウバク、オウレン、センブリ、ゲンチアナ<br>ケイヒ、ショウキョウ、チョウジ、ソウジュツ、ウイキョウ、コウボク | 苦味による健胃作用<br>香りによる健胃作用  |
|          | 消化薬        | ジアスターゼ   |   |
|          |            | タカジスターゼ  |   |
|          |            | ピオジアスターゼ   |   |
|          |            | リパーゼ   |   |
|          |            | プロザイム  | 酵素 = エンザイム  |
|          | 胃粘膜保護、修復成分 | ウルソデキシコール酸   | 利胆作用（胆汁分泌を促す作用）で消化を助ける。コールとはギリシャ語で胆汁のこと。ちなみにコレステロールは胆汁酸の原料で「コレ」は「コール」と同じく胆のことを指す。胎児毒性の恐れあり、妊婦は要相談。    |
|          |            | アズレンスルホン酸ナトリウム   |   |
|          |            | アルジオキサ ※アルミニウム配合   | アラントインと水酸化アルミニウム（ヒドロキシャルミニウム）の複合体。胃の中でアラントインは組織修復を、アルミニウムは胃酸中和をする。透析を受けている人は使用を避ける。                   |
|          |            | ゲファルナート  |   |
|          |            | スクラルファート ※アルミニウム配合                                       | スクロース（ショ糖）とサルフェート（硫酸アルミニウムのこと）の複合体。   |
|          |            | セトラキサート塩酸塩   | 代謝されてトナネキサム酸になるので血栓のある人は注意。トナネキサム酸は止血 & 粘膜の抗炎症作用あり。   |
|          |            | テプレノン  | まれに重篤な副作用として肝機能障害がある。   |
|          |            | 銅クロロフィリン酸カリウム  | クロロフィル = 葉緑素  |
|          | 胃腸鎮痛鎮痙薬    | メチルメチオニンスルホニウムクロライド                                      | 略してMMSC、キャベツの搾り汁から見つかった成分。キャベジンに配合。   |
|          |            | プチルスコポラミン臭化物   | 抗コリン薬。「～ミン」が付くが抗ヒ剤ではないので注意。（生理痛の薬でイブプロフェンとの合剤：Lペインコーワもある。）  |
|          |            | ロートエキス   | 抗コリン薬で、下痢止めにもよく含まれる。乳児の頻脈、母乳が出にくくなるおそれあり。   |
|          | 局所麻酔成分     | パバペリン  | 平滑筋に直接作用。胃液分泌抑制作用×。抗コリン成分と異なるが副作用として眼圧上昇。現在市販薬では使われている商品はないと思われるがなぜか頻出。                               |
|          |            | アミノ安息香酸エチル   | 消化管粘膜への局所麻酔作用により胃痛に使用。メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児は使用不可   |
|          | 胃液分泌抑制剤    | オキセサゼイン  | 消化管粘膜への局所麻酔作用により胃痛に使用。  |
|          |            | 消泡作用   | ピレンゼピン塩酸塩   |
| 整腸作用     | 消泡作用       | ジメチルポリシロキサン（ジメチコン）                                       | シリコンのこと。消化管内容物中に発生した気泡の分離を促す。   |
|          | 整腸作用（生薬）   | アシドフィルス菌   |   |
|          |            | 乳酸菌  |   |
|          |            | ビフィズス菌   |   |
| 整腸作用（生薬） | ラクトミン      | ラクト：「乳の」という意味  |   |
|          | ケツメイシ      | 決明子「目を開く種子」の意。   |   |
|          | ゲンノショウコ    | 現の証拠「胃腸にすぐ効く」の意。   |   |

|   |                         |  |   |
|---|-------------------------|--|---|
| 下痢止め<br>※すべてが止瀉作用をもつわけではなく、止瀉剤に入っている成分全般を記載 | 腸管運動抑制作用                | ロペラミド塩酸塩   | 感染性の下痢×。オピオイド受容体刺激薬。乳幼児への使用で麻痺性イレウスを起こした事例あり、15歳未満使用不可。中枢神経抑制によりめまいや眠気の副作用あり。 |
|   | 収斂作用                    | タンニン酸アルブミン   | 感染性の下痢×。アルブミンは牛乳たんぱくから作られるので、牛乳アレルギーの人は使わない。                                  |
|   |                         | 次没食子酸ビスマス  | 感染性の下痢×。精神症状が出る可能性があるため、1週間以上使用しない。アルコールとの併用で副作用リスク増大。妊婦は使用を避ける。              |
|   |                         | 次硝酸ビスマス  |   |
|   | 腸内殺菌剤                   | タンニン酸ベルベリン   | オウバク、オウレンに含まれ、抗菌作用と抗炎症作用がある。  |
|   |                         | ベルベリン塩化物   |   |
| アクリノール                                      |                         |  |   |
| 吸着成分  | 木クレオソート                 | 黄色色素成分。  |   |
|   | 炭酸カルシウム                 | カルシウムは腸内でたんぱく質と結合し、腸粘膜を保護して刺激を抑える。                         |   |
|   | 沈降炭酸カルシウム               |  |   |
| 乳酸カルシウム                                     |                         |  |   |
| 便秘薬<br>瀉下剤                                  | 小腸刺激成分                  | ヒマシ油   | 腸内要物の急速な排除のために使用。脂溶性成分（殺鼠剤、防虫剤）の誤飲には使用×。激しい腹痛、悪心・嘔吐のある人、3歳未満、妊婦使用×            |
|   | 大腸刺激成分                  | センナ  | 妊婦要相談、授乳婦は使用しない、または授乳を避ける。  |
|   |                         | センノシド  | 妊婦要相談、授乳婦は使用しない、または授乳を避ける。腸内細菌によって分解され効き目を示す。                                 |
|   |                         | ダイオウ   | 妊婦要相談、授乳婦は使用しない、または授乳を避ける。成分中にセンノシドを含む。                                       |
|   |                         | ピコスルファートナトリウム水和物   | 妊婦要相談。腸内細菌によって分解され効き目を示す  |
|   | 無機塩類                    | ピサコジル  | 妊婦要相談、腸溶錠の場合もある→コーティングが溶ける恐れがあるので、服用後1時間は制酸剤を含む胃腸薬、牛乳の摂取は控える                  |
|   |                         | 酸化マグネシウム   | 浸透圧により、便に水分を加えてやわらかくする。   |
|   |                         | 硫酸マグネシウム   |   |
|   | 膨潤性瀉下成分                 | プランタゴ・オバタ  | 車前草のことで、オオバコ科の植物。たくさん水と服用する。  |
| 浸潤性下剤                                       | ジオクチルソジウムスルホサキシネート（DSS） | 腸内容物に水分が浸透しやすくする作用があり、糞便中の水分量を増して柔らかくする。                   |   |
| その他   | マルツエキス                  | 麦芽糖＝マルトースを60%以上含み、麦芽糖が腸内細菌で分解（発酵）し生じるガスにより便通を促進。乳幼児の便秘に使用。 |   |
| 浣腸  | 大腸刺激成分                  | グリセリン  | 排便時に血圧低下の恐れ→高齢者、心臓病の人など注意。痔の人は、グリセリンが傷から入り赤血球破壊（溶血）、腎不全の恐れがあるので注意。            |

資料1 成分名一覧

成分名一覧 目薬

|         |                    |   |                                     |
|---------|--------------------|---|-------------------------------------|
| 目薬      | ピント調節成分            | ネオスチグミンメチル硫酸塩                                 | コリンエステラーゼ阻害剤。アセチルコリンを増やして毛様体筋を収縮させる |
|         | 交感神経刺激薬            | テトラヒドロソリン塩酸塩                                  | 緑内障要相談                              |
|         |                    | ナファゾリン塩酸塩                                     |                                     |
|         | 抗炎症成分              | イブシロンアミノカプロン酸                                 | 炎症の原因となるプラスミンの産生を抑える働きがある、人工アミノ酸    |
|         |                    | 塩化リゾチーム                                       |                                     |
|         |                    | グリチルリチン酸二カリウム                                 |                                     |
|         |                    | ブアラプロフェン                                      | プロピオン酸系解熱鎮痛剤。OTC医薬品では内服では使われない。     |
|         | 組織修復成分             | アズレンスルホン酸ナトリウム                                |                                     |
|         |                    | アラントイン  |                                     |
|         | 保湿剤                | コンドロイチン硫酸ナトリウム                                |                                     |
|         |                    | ヒドロキシプロピルメチルセルロース                             |                                     |
|         | 抗ヒスタミン成分           | クロルフェニラミンマレイン酸塩                               |                                     |
|         |                    | ジフェンヒドラミン塩酸塩                                  |                                     |
|         |                    | ケトチフェンマル酸塩                                    |                                     |
|         | 抗アレルギー成分           | クロモグリク酸ナトリウム                                  |                                     |
|         |                    | アシタザナラスト水和物                                   | 2016年11月より2類へ                       |
|         | 抗菌剤                | スルファメトキサゾール                                   | サルファ剤                               |
|         | 無機塩類               | 塩化カリウム、塩化カルシウム、硫酸マグネシウム、リン酸水素ナトリウム、リン酸二水素カリウム |                                     |
|         | ビタミンA              | パルミチン酸レチノール、酢酸レチノール                           | 目の機能維持                              |
|         | ビタミンB2             | フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム                          | 目の組織呼吸の亢進                           |
| ビタミンB6  | ピリドキシン塩酸塩          | アミノ酸の代謝や神経伝達物質の合成に関わる                         |                                     |
| ビタミンB12 | シアノコバラミン           | 目の調節機能を助ける。コバルトにシアン基のついた赤色の液体。                |                                     |
| パンテノール  | ビタミンB5             | 目の調節機能の回復                                     |                                     |
| ビタミンE   | トコフェロール酢酸エステル      | 血行促進  |                                     |
| アミノ酸    | アスパラギン酸K、アスパラギン酸Mg | 新陳代謝を上げる。アスパラガスから発見されたうまみ成分                   |                                     |

成分名一覧 外皮用薬

|        |         |                             |  |
|--------|---------|-----------------------------|--|
| 皮膚用薬全般 | 抗ヒスタミン剤 | ジフェンヒドラミン<br>クロルフェニラミンマレイン酸 |  |
|        | かゆみ止め成分 | クロタモトン                      | 皮膚に軽い灼熱感を与えることで痒みを感じにくくさせる   |
|        | 局所麻酔成分  | アミノ安息香酸エチル                  |  |
|        |         | リドカイン<br>ジブカイン塩酸塩           |  |
|        | 抗炎症成分   | ウフェナマート                     | 炎症を生じた組織に働いて、細胞膜の安定化、活性酸素の生成抑制などの作用により、抗炎症作用を示すと考えられている                            |
|        | 血行促進成分  | ヘパリン類似物質                    | ヒルドイド、アットノン <sup>®</sup> の成分   |
|        | 収斂成分    | 酸化亜鉛                        | 患部のタンパク質と結合して皮膜を形成し、皮膚を保護する。患部が浸潤または化膿している場合、傷が深いときは、表面だけを乾燥させて悪化させるおそれがあるため使用しない。 |

|   |          |                                 |  |
|---|----------|---------------------------------|--|
| 皮膚用薬<br>全般                                  | 角質軟化成分   | サリチル酸                           | 角質成分を溶解する  |
|   |          | イオウ                             | 皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させる  |
| 皮膚用薬<br>全般                                  | 保湿成分     | グリセリン、尿素、白色ワセリン、オリーブ油、ヘパリン類似物質等 | 角質層の水分保持量を高める  |
|   |          | サルファ剤                           | スルファジアジン   |
| 皮膚用薬<br>抗菌薬                                 | DNA合成阻害剤 | ホモスルファミン                        |  |
|   | 細胞壁合成阻害剤 | バシトラシン                          |  |
|   | 蛋白質合成阻害剤 | クロラムフェニコール                      |  |
|   |          | 硫酸フラジオマイシン                      |  |
| 皮膚用薬<br>ステロイド性抗炎症薬                          | ストロング    | デキサメタゾン吉草酸エステル                  | ・末梢組織の免疫機能低下。水痘、水虫、たむし、化膿した患部には使用不可。<br>・コルチゾンに換算して1gまたは1mL中0.025mgを超えて含有する製品では特に長期連用を避けるとなっている。 |
|   |          | プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル             |  |
|   |          | 吉草酸ベタメタゾン                       |  |
|   | ミディアム    | 酪酸ヒドロコルチゾン                      |  |
|   |          | デキサメタゾン                         |  |
|   | ウィーク     | プレドニゾン酢酸エステル                    |  |
| ヒドロコルチゾン                                    |          |                                 |  |
| 皮膚用薬<br>水虫薬<br>ジクジク：クリーム、軟膏<br>カサカサ（角質化）：液体 | 第二世代     | オキシコナゾール硝酸塩                     | 糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げる  |
|   |          | ビホナゾール塩酸塩                       |  |
|   |          | ミコナゾール硝酸塩                       |  |
|   |          | シクロピロックスオラミン                    |  |
|   | 第三世代     | アモルフィン塩酸塩                       | 糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げる<br>※第三世代にかゆみ止め成分が入ったものが第四世代  |
|   |          | ブテナフィン塩酸塩                       |  |
|   |          | テルビナフィン塩酸塩                      |  |
|   | その他      | ピロールニトリン                        | 菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。クロトリマゾールとの合剤で使われる。   |
|   |          | ウンデシレン酸                         | 患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。実在する市販薬があるかどうかは不明。  |
|   | 外用消炎鎮痛薬  | 消炎鎮痛成分                          | インドメタシン  |
| ジクロフェナクナトリウム                                |          |                                 | 喘息の人注意。塗り薬やエアゾールは1週間に50mL以上使用しない。  |
| ケトプロフェン                                     |          |                                 | 喘息の人注意。塗り薬やエアゾールは1週間に50mL以上使用しない。光線過敏症に注意。オキシベンゾン、オクトクレリン（紫外線吸収剤）などの物質でアレルギーが出た人は使わない。           |
| ピロキシカム                                      |          |                                 | 喘息の人注意。塗り薬やエアゾールは1週間に50mL以上使用しない。光線過敏症に注意。   |
| フェルピナク                                      |          |                                 | 喘息の人注意。塗り薬やエアゾールは1週間に50mL以上使用しない。  |
| サリチル酸グリコール                                  |          |                                 | アセチルサリチル酸の類似成分。サロンパスの匂いの元となる成分。  |
| サリチル酸メチル                                    |          |                                 |  |



資料1 成分名一覧

成分名一覧 その他

|             |  |                                   |  |  |
|-------------|--|-----------------------------------|--|--|
| 殺虫剤・忌避剤     | 有機リン系  | ジクロロボス                            | アセチルコリン分解酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と <b>不可逆的</b> に結合して働きを阻害する。<br>ウジの防除法としては、通常有機リン系殺虫剤が用いられる。<br>その他：ダイアジノン、フェントロチオン、フェンチオン、トリクロロホン、クロルピリホスメチル、プロパタンホス |  |
|             | カーバメイト系                                      | プロポクスル                            | アセチルコリン分解酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と <b>可逆的</b> に結合して働きを阻害する。   |  |
|             | オキサジアゾール系                                    | メトキサジアゾン                          |  |  |
|             | 有機塩素系（DDT等）                                  | オルトジクロロベンゼン                       | 神経伝達阻害。現在、 <b>有機塩素系の中では、これのみがウジ・ボウフラの防除の目的で使用されている。</b>  |  |
|             | ピレスロイド系                                      | ペルメトリン、フェントリン、フタルスリン              | 神経伝達阻害。除虫菊の成分から開発された成分。フェントリンは殺虫成分で唯一 <b>人体に直接適用</b> される。  |  |
|             | 昆虫成長阻害成分                                     | メトプレン、ピリプロキシフェン                   | 幼虫がさなぎになるホルモンを抑制するホルモンに似た作用がある。さなぎにならずに成虫になる昆虫、ダニには無効。   |  |
| 駆虫成分        | 回虫駆除   | ビベコルプトキシド（PBO）                    | 殺虫補助成分。  |  |
|             |  | ディート                              | 効果が高く、持続性も高いとされる。生後6か月未満の乳児への使用は避ける。   |  |
|             | 回虫・蟯虫駆除                                      | サントニン                             | 回虫の <b>自発運動抑制</b> 。主に肝代謝されるので肝臓病の人は要相談。副作用：一時的に物が <b>黄色く</b> 見える、口渇、耳鳴りなど。   |  |
| 高コレステロール改善薬 | 高コレステロール改善成分                                 | カイニン酸、マクリ                         | 回虫に <b>痙攣</b> を起させる。カイニン酸はマクリ（フジマツモ科マクリの全葉で海人草とも呼ばれる）から抽出される。  |  |
|             |  | ピペラジニン酸塩                          | 回虫・蟯虫の <b>アセチルコリン伝達阻害による運動筋麻痺</b> 作用。副作用：痙攣、倦怠感、眠気、食欲不振、下痢、便秘  |  |
|             |  | バモ酸ピルビニウム                         | 蟯虫の <b>呼吸や栄養分の代謝を抑える</b> 。ヒマシ油、脂肪の多い食事、アルコールとの併用避ける。尿・便が <b>赤く</b> なることがある。  |  |
|             | ビタミン成分                                       | 大豆油不飽和化物（ソイステロール）                 | <b>腸管のコレステロール吸収を防ぐ。</b>  |  |
|             |  | リノール酸                             | コレステロールと結合して代謝されやすいコレステロールエステルを形成、 <b>肝臓でのコレステロール代謝を促す。</b>  |  |
|             |  | ポリエンホスファチジルコリン                    | <b>LDL等の異化排泄促進</b> 、リポタンパクリパーゼの活性を高めて <b>HDL産生を高める。</b>  |  |
| 貧血用薬        | 鉄  | パンテチン                             | 脂質代謝に関与。コレステロールの生成抑制。  |  |
|             |  | ビタミンE（トコフェロール酢酸エステル）              | コレステロールから過酸化脂質の生成抑制。末梢血流促進。  |  |
|             | その他の金属                                       | フマル酸第一鉄                           | 消化器系の副作用あり。  |  |
|             |  | 溶性ピロリン酸第二鉄                        |  |  |
|             | ビタミン成分                                       | 銅                                 | ヘモグロビンの産生過程で、 <b>鉄の代謝や輸送</b> に重要な役割を持つ。  |  |
|             |  | コバルト                              | ビタミンB12の構成成分。ビタミンB12は <b>赤血球産生</b> に関与する。造血機能を高める。   |  |
| マンガン        |  | 三大栄養素の代謝に関与する酵素の構成物質。エネルギー合成促進。   |  |  |
| 循環器用薬       | 西洋薬  | ビタミンC                             | 消化管内で鉄が吸収されやすい形（ヘム鉄）に保っている。  |  |
|             |  | コビデカレノン（コエンザイムQ10）                | 肝臓や心臓などに多く存在し、 <b>エネルギー代謝</b> に関与する酵素の働きを助ける。「デカ」はギリシャ語で10のこと。ビタミンB群と一緒に使われることがある。   |  |
|             |  | ヘプロニカート                           | <b>ニコチン酸遊離</b> による血液循環促進。ビタミンEと組み合わせられて使われることが多い。  |  |
|             | イノシトールヘキサニコチネート                              |                                   |  |  |
|             | ルチン  | 高血圧等における <b>毛細血管の補強</b> 。ビタミン様物質。 |  |  |
| 滋養強壮保健薬     | アミノ酸成分                                       | 生薬                                | コウカ  | 紅花。キク科ペコバナの管状花を使用。                                     |
|             |  | システイン                             | アミノエチルスルホン酸（タウリン）  | 肝臓でアルコール分解酵素の働きを助ける。髪や爪、肌などに存在するアミノ酸の一種。メラニン生成抑制作用もある。 |
|             |  |                                   | アミノ酸成分   | アミノエチルスルホン酸（タウリン）                                      |
|             | アスパラギン酸ナトリウム                                 |                                   | エネルギー産生効率を高め、骨格筋の疲労物質、乳酸分解を促す。   |  |
|             | その他  | VCの吸収を助ける。                        | ハスベリジン   |  |
|             |  | コンドロイチン硫酸ナトリウム                    | コンドロイチン硫酸は、軟骨組織の主成分。関節痛、筋肉痛等の改善。   |  |
| グルクロノラクトン   |  | 肝臓の働きを助ける。                        |  |  |
| ガンマーオリザノール  | 米油、米胚芽油から見出された成分で、抗酸化作用を示す。VEと組み合わせられることもある。 |                                   |  |  |